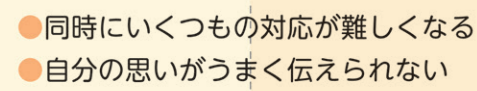
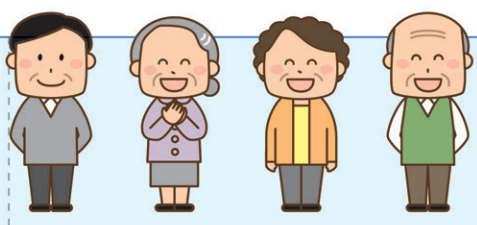


認知症の症状や状態に応じて 利用できる支援体制の流れ

認知症の診断がついたとしても、何もかもわからなくなるわけではありません。本人の状態にあった支援をすることで、できることはたくさんあります。下の表では、状態別に症状や周りの方の対応方法、宇城市の支援体制を紹介します。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、様々な支援を行っています。

認知症の 進行について	以前と様子が変わってくる → 日常生活は何とかできる → 誰かの見守り・支援があれば自立 → 手助けや介助が必要 → 常に介護が必要				
	正常なレベル	軽度認知障害 (MCI)	認知症初期	認知症中期	認知症後期
本人の様子	● 歳とともにもの忘れが増えた ● 知り合いや家族の名前がでなくなったなどの自覚がある ● 新しいことを覚えることが苦手になってくる 	● 物忘れの自覚がある ● 何かのヒントがあれば思い出せる ● 書類の確認や手続きが苦手になる ● 簡単にできていたことを面倒くさがるようになる ● 覚える事が苦手になる ● 「あれ」「それ」が多くなる ● 人の名前が出にくくなる 	● 約束ごとを忘れることがある ● 探し物が多くなる ● 何度も同じ話をする ● お札で支払いをするので小銭が増える ● 料理が固定化してくる ● 外出がおっくうになる ● 火の消し忘れ、水の止め忘れがある 	● 季節にあった服を選べなくなる ● 家の近くや慣れた場所でも迷う ● 財布など盗られたと言い出す ● 料理の手順がわからなくなる ● 暴力行為、抑うつ状態など性格が変わったように感じる ● 排泄の失敗が増える ● 家族がわからなくなる ● 住所がわからない 	● 歩行が不安定になる ● 指示通りに動作できなくなる ● 発語が減る ● 会話が難しくなる ● 表情が乏しくなる ● 食べ物でない物を口に入れる ● 記憶がこぼれおち、実際の年齢より若い頃の記憶で過ごしている
家族の心構え・ しておきたいこと	● 地域のサロンや友人との交流など積極的に社会参加されるよう働きかける ● 趣味活動が継続できるよう支援する ● 将来のことを考え、認知症や介護に対する知識を学ぶ	● 認知症の方との接し方の基本やコツを学び理解する ● 家族間で役割分担や今後認知症が進んだ時の対応について話をする ● 友人や近所の人に相談する ● 困ったことや不安があれば抱え込まず、相談機関に気軽に相談する	● 介護量が増えるため、家族で抱え込まず、早めに介護保険申請し利用について検討する ● 認知症カフェに本人と一緒に参加する ● 本人の不安を受け止める ● 外出の機会や趣味を今まで通り続ける	● 介護負担を感じるようになる。何でも相談できる相手を見つけましょう ● 家族と協力し、リフレッシュできる時間をつくりましょう	● 介護サービスを利用しながら、家族の負担が大きくなりないようにしましょう ● 施設での生活を検討する場合は早めに施設見学をする ● 最後の過ごし方や看取りについて、家族で話し合う
支援体制	介護予防・ 介護保険サービス	ふれあいいきいきサロン・地区福祉会・通いの場（100歳体操・脳いきいきサロン）・脳いきいき教室・脳いきいきサークル・かたろう会・元気になる学校・みな来るサークル			介護予防・日常生活支援総合事業（認知症予防型通所サービス） 各種介護保険サービス（通所介護、訪問介護、小規模多機能型居宅介護など）
	家族支援・ 生活支援	地域や職場、学校で認知症の正しい理解：認知症サポーター養成講座、認知症市民フォーラム 高齢者見守りネットワーク 			認知症初期集中支援チーム 介護者のつどい：地域包括支援センター 地域福祉権利擁護事業：成年後見支援センター 成年後見制度：地域包括支援センター、成年後見支援センター
	住まいの提供	ケアハウス サービス付き住宅（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム等） 介護を受けられる住宅（認知症対応型グループホーム、特別養護老人ホーム等）			
	相談窓口	認知症が心配な時の相談先：かかりつけ医、地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）、市高齢介護課 熊本県認知症コールセンター TEL 096-355-1755 介護保険についての相談：ケアマネージャー、地域包括支援センター 診断を受けるには：かかりつけ医、もの忘れ外来、認知症疾患医療センター			